

解 説



次世代経営研究会第13回定例会

Next Generation Management Research Association 13th Regular Meeting

「投資家が測る“経営の確からしさ”－業績以外に見るべき企業活動のパラメータとは」前半

How investors measure “management reliability” -what parameters of corporate activity should be considered beyond performance-first half

事業部会経営委員会 次世代経営研究会運営委員会

Business Division Management Committee Next Generation Management Research Association Steering Committee

1. はじめに

2026年3月27日に「次世代経営研究会第13回定例会」をリモート形式で開催し、参加者は関係者を含めて32名であった。今回は三菱UFJ信託銀行資産運用部・副部長兼フェローの三橋和之氏をお招きして、「投資家が測る“経営の確からしさ”－業績以外に見るべき企業活動のパラメータとは」の演題で講演いただいた。

私達が普段、企業活動をする上では、自社の収益に関心を持つ人は多いと思うが、自社の「外」にあるお金の巡りのことまでを考える人は少ない。投資家が企業に投資する場合、その企業を取り巻く業界や国、産業全体を俯瞰し、また現在だけでなく過去や将来予測から判断している。

今回は信託銀行で法人企業を担当する三橋和之氏にご登壇頂き、株式市場における企業活動の“確からしさ”をどう評価しているかを解説していただき、その後パネルディスカッションにてパネリストを交えて議論を行った。本号では基調講演を紹介する。

2. 開会挨拶 品質工学会・会長 佐藤吉治

前回の第12回は金融業界の変化について取り扱った。損失関数は金額に換算するものであり、金融と品質工学は相性の良いものではないかと感じたが、多くの学会員は金融業界に疎いということも明

らかになった。それもあり、今回は前回より踏み込んで、「投資家が測る経営の確からしさ」となっていると理解している。昨今はますます先が見通せない状況にあり、企業経営そのもののロバスト性が問われているのではないかと感じる。それを社会、市場がどう評価しているかを知ることが重要と考える。事前に三橋氏の講演資料を拝見する中でも気づく点が沢山あった。投資家が図る企業の持続的成長のパラメータとして着目しているのは財務指標だけではないという点にも納得感があった。品質工学では開発プロセスの効率化としてフロントローディングの開発に力を入れているが、総合的品質管理が根付いている必要があると感じる。このような取り組みは財務指標には表れにくいと思うが、投資家からどのような評価を受けるのかも興味がある。またパネルディスカッションでは豪華なパネリストに参加いただくので、その場でも議論を深められればと思っている。参加者の方々が明日から役立てられる成果が得られることを願う。

3. 基調講演：三菱UFJ信託銀行 資産運用部 副部長兼フェロー 三橋 和之氏

3.1 企業とお金

3.1.1 企業の資金調達と機関投資家

企業が経営活動を行うには、継続的な外部からの資金調達が不可欠である。調達的手段としては、銀